小中一貫教育推進　城山学園　　平成３０年７月１３日
Ｎｏ　４３

# 学園コーディネーター通信

学園ＣＯ　水﨑浩克

めざす学園像：家庭や地域と共に、主体的に社会に参画・貢献する子どもの育成に専念する学校

## めざす学園像の**「子どもの参画」**について考えてみましょう

城山学園がめざすのは「参画・貢献」ですが、ここでは、「子どもが計画段階から参加して活動し、そのことが広い意味での社会の多様な面に貢献する」と考え「子どもの参画」にしぼります。そして、「子どもの参画」とはどのような姿なのかを考えたいと思います。

**子どもは「何に参画するのか」**

**□子ども自身の人生への参画**＝子どもが自分の生活を主導すること

例えば、居住地域の祭りに参加する、歴史や文化について調査・研究をして他者に伝える、地域の産物や行事の宣伝活動を通して活性化の一翼を担う等々

**□地域コミュニティへの参画**＝家庭内、学校、地域、市や県の行事参加や発言・発信

例えば、ボランティア活動に参加する、児童会・生徒会活動への積極的参加、町おこし企画への参加と発言、環境保全や高齢者福祉活動への参加等々

これらの参画が、<u>社会への適応能力や責任感</u>の増加、<u>自己実現</u>に結びつき、子どもが意欲と自信に満ちた<u>社会の一員</u>に成長するのを助けることにつながります。

この**「子どもの参画」**を促し支援していくためには、次の４点が事前学習として必要と言われます。Ｊドリーム学習においては単元計画に組み込まれていると思われます。

（１）子どもが計画の内容を理解している
（２）子ども自身が、誰から、なぜその役割を決められたのかを知っている
（３）子どもが意味のある役割を得ている
（４）計画について理解した上で子どもが自発的に参加している

「子ども主導の活動に大人も巻き込むような子どもの参画」が理想的ですが、学年発達や学習内容との関係があるので、<u>段階をふまえ階段を登るような指導支援の仕組み</u>を考えていくことが必要と考えます。次回、この階段について考えたいと思います。

〈参考・引用文献〉
九州大学大学院人間環境学府　山下智也氏
「子ども参加論の展望と課題：ロジャー･ハートの『子ども参画』論を乗り越える」

# 「ビブリオバトル」ｉｎ城山中

～自分の好きな本を紹介する姿に感心！～

城山中の生徒図書委員会が主催する「ビブリオバトル」を初体験しました。
「ビブリオバトル」とは、（公式ウェブサイトより）

知的書評合戦とも言い、好きな本を互いに紹介しあう、本を通したコミュニケーションゲームのことです。そして、次のルールがあります。

① 発表参加者が読んでおもしろいと思った本をもって集まる
② 順番に一人５分間で本を紹介する
③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分行う
④ 全ての発表が終了した後に「どの本が１番読みたくなったか」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする

参加者自身が本を選び、ビブリオバトルを通して、発表者の「人となり」に出会い、新たな本に出会えるというよさがあります。つまり、「人を通して本を知り、本を通して人を知る」という人と人が互いのことをわかり合うコミュニケーションの場づくりを目指しているそうです。

いいですね！　初めて知りました。

小学校でも取り組んでみてはどうでしょうか。ユリックスの市民図書館が協力、支援してくださるようです。

図書委員長が司会進行。４人のバトラーが本の紹介をしました。あらすじ、おもしろい場面、印象に残る一節等々の話に参加者はすいこまれるように聞き入っていました。

このビブリオバトルは、図書委員が企画・運営したもので、前ページの必要条件（１）～（３）が整っていると思います。これから回を重ねることで（４）が高まっていくことと思います。そうなれば、生徒の表現力やコミュニケーション力を高める**「生徒の参画」**と言えるものになっていくのではないでしょうか。